

- 高等学校等における ICTの活用促進
 学校種間連携の強化
 英語担当教師及び小学校教師の指導力・英語力の向上

当該地域における英語教育の課題

① 生徒の英語力向上につながる言語活動時間の充実

生徒の英語力の割合が全国平均を下回っており、また、生徒の授業における英語による言語活動時間は地域や学校間での差が大きい。言語活動を中心とした授業改善や目標を達成している学校の取組の発信が不十分であると考えられる。

<求められる英語力を有する生徒の割合> 中A1 47.7% (49.2%)、高A2 45.5% (48.7%)

<生徒の授業における英語による言語活動時間の割合> 中68.3% (74.5%)、高56.4% (52.9%)

② 学校種間連携の実施

学校種間連携が進んでいない地域があり、地域間での差が大きい。課題のある地域の支援や先進的な地域の取組の発信が不十分であると考えられる。

<小中連携の実施状況> 68.2% (75.5%)

<小高連携の実施状況> 18.9% (8.3%) <中高連携の実施状況> 11.3% (19.5%)

③ 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用

パフォーマンステストの実施状況が本県の目標 (55.0%) に達していなかったり (高校)、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用の割合が全国平均と差があったり (小学校) と「目標・指導・評価」の一体化の実現に向けて課題が見られる。依然として県内全域には指導と評価の一体化の促進や浸透が不十分であったと考えられる。

<スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合> 高 53.5% (48.6%)

<「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用>

小(公表) 59.1% (48.4%) (把握) 86.8% (70.0%)

中(公表) 70.3% (65.7%) (把握) 81.1% (78.4%) 【出典】R4英語教育実施状況調査：本県 (全国平均)

<実施内容>

◆ 学び続ける外国語担当教師を支援する「自治体連携オンライン英語授業改善サポート研修」の実施【高】 (課題①③)

連携オンライン研修を実施して2年目となる山梨県、静岡県、三重県、鹿児島県の4県で指導と評価に係る研修等を実施し、顧問の武蔵野大学・特任教授による講義を行った。さらに、本年度新たに設けた「オンラインゼミナール」において、4県の指導主事等が、各県での「生徒の英語力向上に向けて実施している取組」について発表を行い、各県の教員をつなぎ意見交流や成功した取組について共有した。今年度から、アライアンス以外の指導主事も参加できるようにした。

◆ 「小中高連携チーム」による取組【小・中・高】 (課題②)

県内における「小中高連携」を強化するため、2つのモデル地区を設定し、大学教員の助言を得たり、1学期の途中で外部試験 (GTEC) を実施し、中学校区の中学3年生の英語力を客観的に分析したデータを活用し、小中学校英語科担当教員が、同中学校区の子どもの英語力に関する成果と課題を把握し今後の指導改善に生かしたりしながら、以下のことに取り組んだ。取組については、県発行の英語通信や、指導主事会および事例集で県内外へ共有した。

(志摩市) 市内の各小中学校英語科担当教員を対象とする小中合同研修会と授業参観をベースに連携を強化することにした。研修会では、各校種の教科書や実施したテスト、授業参観時に使用した「参観シート」を活用して、小中の「共通点」と「課題」についてKJ法で分析した。その他、県立鳥羽高等学校とも授業参観等で連携した。

(桑名市) 多度中学校区で取り組んだ。Googleクラスルームを活用した情報や教材等の共有、Small Talkを授業改善の共通テーマとする授業参観等で連携を強化した。小学校5年生から中学校3年生までの各段階の「目指す姿」と全校種の「共通事項」を作成した。その他、県立四日市高等学校とも授業参観等で連携した。

◆ 小中高連携に係る事例の普及に重点を置いた教員研修の実施【小・中・高】 (課題①②)

発達段階ごとの学びの目標や内容を踏まえて、言語活動を行う目的や場面、状況を明確にした授業づくりについて、教員が学び実践することをねらいとして、研修を年間を通して遠隔や集合の形態で延べ40講座ほど実施した。

また、授業改善の優良事例の普及を図るため、デジタル教科書を活用した校種別の公開授業の事例集を作成し三重県総合教育センターのHP等で掲載したり、研修の様子や内容等を英語通信「Mie English News」で掲載し県内外に発信したりした。

<成果指標に基づく成果及び検証>

【出典】R5 英語教育実施状況調査：本県（前年比）

◆ 課題①に対する成果検証

- ・<求められる英語力を有する生徒の割合> 中A1 47.7% (±0pt)、高A2 46.4% (+0.9pt)
- ・<生徒の授業における英語による言語活動時間の割合> 中64.9% (-3.4pt)、高45.2% (-11.2pt)

高等学校の生徒の英語力については、パフォーマンステストの充実や英語担当教員の英語力の改善が生徒の英語力向上につながったと考えられる。しかし、言語活動の割合については、中高とも前年度より減少し、課題として浮き彫りになった。中高とも英語担当教員の授業における英語使用状況の割合が前年度より減少(中：-15.2pt 高：-11.2pt)し生徒が英語に触れる場面が十分には確保されなかったことや、ICTを活用することそのものが目的となり、ICTが言語活動の充実に資するものになっていなかった可能性があることが要因の一部として考えられる。来年度、最も注力して改善に取り組むべき課題であると捉える。

◆ 課題②に対する成果検証

- ・<小中連携の実施状況> 83.1% (+14.9pt)
- ・<小高連携の実施状況> 13.2% (-5.7pt) <中高連携の実施状況> 13.2% (+1.9pt)

県内のモデル2地区の取組について研究し、その実践例を指導主事会で還流したり、研修会のテーマを「小中連携」に設定し実施したりしたことが、教員の小中連携の意識を高め、県内全体の改善につながったと考える。教員からも、「中学校のゴールや学びを知ることで、小学校のうちにつけさせる力が明確になった。」等の声が学校訪問や研修の場で聞かれるようになった。

◆ 課題③に対する成果検証

- ・<スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合> 高 61.5% (+8pt)
- ・<「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用>
 - 小(公表) 65.3% (+6.2pt) (把握) 83.8% (-3pt)
 - 中(公表) 76.4% (+6.1pt) (把握) 81.8% (+0.7pt)

4県合同の研修等で様々な特色を持つ学校による取組を共有したことより、各校の現状にあったパフォーマンステストが取り入れられたと考えられる。「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標については、小学校で減少した項目(把握)もあったが、意義等について発信したことで、他項目(小：(公表)および中：(公表)(把握))は増加し活用が浸透してきた。

<今後の方向性>

- ① (生徒の英語力目標値 中A1 50.0%、高A2 50.0%)
(生徒の言語活動の割合目標値 中 75.0%、高 60.0%)
- ② (小中連携の実施状況目標値 85.0%)
- ③ (「CAN-DOリストの活用(把握)」目標値 小 100%)

◆ 課題①に対して

言語活動を充実させ児童生徒の英語での発信力向上を図るためには、児童生徒に英語に十分に触れさせたりICTのさらなる効果的な活用が必要であると考え。そこで、2024年度は、課題解決及び児童生徒の英語力向上に向けて、教師が生徒の理解に応じた英語で行うコミュニケーション型授業を推進したりICT活用の効果検証やオンライン国際交流等のICTを活用した取組を行う。

◆ 課題②に対して

小・中・高の10年間を見通した系統的な英語教育を通して、全ての子どもたちが英語に親しみ発達段階に応じた英語力を身につけられるよう、引き続き英語教育に携わる教員の英語運用能力・実践的指導力の向上を図る研修を実施したり先進的な地域の取組を発信したりして小中連携を推進し、広域に普及させる。

◆ 課題③に対して

児童生徒の自己肯定感を高めるための指導と評価をふまえた英語の授業づくりについて学ぶ研修を実施し、「CAN-DOリスト形式による学習到達目標の達成状況の把握」の重要性とその方法を伝える。また、先進的に指導と評価の一体化に係る推進事業を行った県外への視察・情報収集を行い、その結果を英語通信や指導主事会等で共有し、県内全域で指導と評価の一体化の実現につなげる。

成果普及

▶ 実践事例集(①小中連携/②デジタル教科書)

①https://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/m0205100069_00003.htm

②<https://drive.google.com/drive/folders/1EQQahwoA8-tz7XUo8Y9HXCm0aa9PU3qI?usp=sharing>

▶ 英語通信での発信

https://drive.google.com/drive/folders/1X2hB4IjFq2Wh090j1w05Dmmk_CvfUQJ?usp=sharing

▶ P R大使の発信

<https://www.instagram.com/miekenshuinsta/?hl=ja>